

## 兵庫医科大学 英語

2026年 1月 28日実施

〔問 1〕

(1)

(A) ア ⑤ イ ①

(Half the people ~) **end up crying at some** (point, recalling some hard event in their lives.)

(B) ウ ④ エ ①

(But perhaps, there's a ~ reason for) **why people don't ask each** (other about ~.)

(C) オ ⑤ カ ④

(As ~, he was well aware that social connection) **is the number one source of** (happiness, ~.)

(D) キ ③ ク ②

(~ some experiments in which he induced people) **to talk with other commuters** (during ~.)

(E) ケ ③ コ ①

(~ reported that a commute spent talking with someone) **was much more fun than** (~.)

(F) サ ④ シ ①

(Epley continued his research and) **came up with an answer to** (the mystery: ~)

(2) もしあなたが軽く人々に促すなら、彼らは夢中になって人生の物語を共有するだろう。

[別解] もし人々を少しだけ後押しすれば、その人たちは熱心に自身の身の上話をしてくれるだろう。

〔問 2〕

(1) ある種の天候の変化

(2) 頻繁に天候が変化するコロラド州に住む偏頭痛患者たちが、天候が引き金となる頭痛を発症した結果、仕事、学業、人との約束に支障をきたし、無力感が生じる可能性がある。

[別解] 天候の変動によって偏頭痛が起こった結果として、仕事や学業や社交の予定が台無しにされ、無力感を覚えてしまうことがある。

(3)

ア	⑤	イ	③	ウ	②	エ	①	オ	④
カ	⑦	キ	⑨	ク	⑧	ケ	⑥	コ	⑩

〔問 3〕

(1) ③

(2) ③

(3) 母の世界は以前よりも小さくなり、彼女はあまり遠くまで外出できなくなりましたが、私が思うに、彼女はあらゆるものに美を見出し続けていました。私はそのことに大きな感銘を受けています。

[別解] 私が思うに、彼女の世界は次第に狭まり、それほど遠くまで出かけることはできなくなりましたが、それでも彼女はあらゆるもののの中に美しさをひたすらに見いだし続けていたのです。それは私にはとても心を打つものに思えます。

- (4) ④ (5) ①

(6) ホスピスのことであり、そこにいるのは全員死にゆく運命を自覚した人々であるという意味で「死にゆく場所」である。

[別解] 末期患者を収容するという点で、死というものと同義であるとも言えるホスピスのこと。

[問 4]

(1) If you go to a place, you breathe the air of that place. In much the same way, once you are there, you find yourself speaking like the locals before you know it.

[別解] Different countries have different atmospheres, and languages are subject to changes in those atmospheres. That's why we cannot go against them when learning languages.

(2) Changes in accent happen first, followed by changes in vocabulary. If this order is reversed, the chances are that you cannot master any language.

[別解] Typically, our accent changes first, and then our vocabulary follows. If we reverse this order, we will have difficulty mastering a foreign language.

<解説> [以下の構造説明においては、\_\_ が S、\_\_ が V、.... が O、... が C を表す]

[問 1] 長文総合

(1) 語句整序問題である。

(A) (Half the people he interviews) **end up crying at some** (point, recalling some hard event in their lives.)

「彼が面談する人々の半数は、自分たちの人生における何らかのつらい出来事を思い出し、ある時点で泣いてしまうのである」

<end up doing ~> 「最終的に～することになる」

(B) (But perhaps, there's a ~ reason for) **why people don't ask each** (other about ~.)

「しかしもしかしたら、人々がどうして自分の人生の話についてお互いに聞き合ったり、自分の人生の話をしたりすることがないのかについての、もっと単純ではるかに修正可能な理由があるのかもしれない」

<why S do ~> 「なぜ S は～するのか」

(C) (As ~, he was well aware that social connection) **is the number one source of** (happiness, ~.)

「行動心理学者として、彼は人と人とのつながりが、幸福や成功や健康や人生のすばらしさの多くの第一位の原因であるということをよくわかっていた」

<the number one ~> 「第一位の～」

(D) (~ some experiments in which he induced people) **to talk with other commuters** (during ~)

「中心部に向かう電車に乗っている間に、ほかの通勤客と話をしよう人々を仕向けるいくつかの実験を彼は行った」

<induce O to do ~> 「O を～するよう仕向ける」

(E) (~ reported that a commute spent talking with someone) **was much more fun than** (~.)

「外向的な人だけでなく内向的な人も、誰かと話して過ごす通勤時間は、自分の画面をじっと見たまま過ごす通勤時間よりもはるかに楽しいと報告した」

fun 「楽しい」

(F) (Epley continued his research and) **came up with an answer to** (the mystery: ~)

「エプリーは、彼の研究を継続し、その謎に対する答えを思いついた」

<come up with ~> 「～を思いつく」

## (2) 和訳問題である。

「もしあなたが軽く人々に促すなら、彼らは夢中になって人生の物語を共有するだろう」

和訳すべき箇所の構造を確認する。

<If you give people a little nudge>, they will share their life stories <with enthusiasm>.

S' V' O' O' S V O

if 節中の **nudge** が単語としてやや難しいが、ここでは目的語になっていることから、名詞と予想できる。その意味は、「軽い一押し」である。if 節を直訳すると「もしあなたが人々に少しの軽い一押しを与えれば」となる。<give O a little nudge>で動詞句のように考えて「O を軽く促す、O に少し後押しをする」とするとよい。主文に含まれる <with enthusiasm> で「熱心に、夢中になって」の意味を表し、**life stories** は「人生の話、身の上話」の意味である。動詞である **share** は「～を（話して）共有する」の意味である。「～を話す」としてもよいだろう。以上をまとめると、「彼らは、夢中になって自分の身の上話を共有してくれるだろう」という訳になる。さてここで問題になるのは、やはり if 節の中の **nudge** である。この語の意味が分からなかった場合、下線部の前後に書かれていることから予測することになる。ここで注目したいのは、直前部分である第 4 段落第 3 文後半である。その意味は、「私たちはどれだけ会話を楽しんでくれるかを予想するのが下手なため、そうした会話を始めない」である。ここから私たちは、相手の反応に慎重になるあまり自分から話を切り出すことはないということである。ところで、その後の同段落第 4 文前半で、「私たちは他人がどれだけ話したいと思っているかを過小評価している」とある。つまり、ここでは、人はむしろたくさん話したいと思っているということを確認しているわけである。ここから、if 節に戻り、もし聞き手であるあなたが何を与えたら、主文で書かれているように、「他人は夢中になって自分の身の上話をしてくれる」ということを考えればよい。ここで「きっかけ」や「促し」という訳語が予想できたら素晴らしいことである。以上を踏まえて答えを仕上げればよい。

## 〔問 2〕 長文総合

## (1) 代名詞が指す内容を説明する問題である。

「ある種の天候の変化」

下線部(1)を含む英文の意味は「研究によると、偏頭痛患者の 30～50%がある種の天候の変化を偏頭痛の誘因だとみなしており、それが最も頻繁に報告される偏頭痛の原因となっている」である。下線部

(1) it は、文中前半の “some type of weather change” だと考えられる。

## (2) 語句の表す内容を明らかにして和訳する問題である。

「頻繁に天候が変化するコロラド州に住む偏頭痛患者たちが、天候が引き金となる頭痛を発症した結果、仕事、学業、人との約束に支障をきたし、無力感が生じる可能性がある」

和訳すべき箇所の構造を確認する。

The results can disrupt work, school and social plans, and create a sense of helplessness.

S V<sub>1</sub> O<sub>1</sub> V<sub>2</sub> O<sub>2</sub>

“The results” の内容を明らかにせずに和訳すると「その結果によって、仕事、学業、人との約束に支障をきたし、無力感が生じる可能性がある」となる。下線部の前文に「コロラド州で診療を行う神経科医かつ頭痛専門医として、天候の変化が頻繁なこの地では、患者から『天候が偏頭痛を引き起こす最大の原因の一つだ』と言われることが多い」とある。「仕事、学業、人との約束に支障をきたし、無力感が生じる」原因となる “The results” の内容は、「頻繁に天候が変化するコロラド州に住む偏頭痛患者たちが、天候が引き金となる頭痛を発症したこと」だと考えられる。それをより簡潔に述べると「天候の変動によって偏頭痛が起こったこと」となる。

(3) 空所補充問題である。

- (ア) ⑤ Doctors still don't fully understand why ~.
- (イ) ③ ~ this change may affect ~ or how blood vessels in your brain dilate and constrict.
- (ウ) ② ~ in the pressure between the inside of your skull and the outside environment.
- (エ) ① ~ which play a key role in activating migraine.
- (オ) ④ ~, likely due to heightened sensitivity to light and an overactive visual processing system in the brain.
- (カ) ⑦ Lightning and strong winds may also be linked to migraine attacks in certain individuals.
- (キ) ⑨ ~, it's rarely the only one.
- (ク) ⑧ ~, can make a big difference in managing migraines.
- (ケ) ⑥ ~ because it feels completely out of your hands.
- (コ) ⑩ ~, you can take back a sense of control.

まずは文構造を確認して空所に入れるべき品詞をできるだけ確定し、一番確実と思われるところから順に答えを決めていくことが大切である。

(ア)には、understand を修飾する副詞が必要であると予想できる。⑤ fully、⑨ rarely のいずれかが候補となる。このうち fully を入れることで「医者はまだ完全には理解していない」という意味になる。

(ウ)には、後ろに and があることから② between を入れ、<between A and B> という形をつくることで「頭蓋骨の内部と外部環境の間」という意味になる。

(エ)の直前には前置詞の in、直後には名詞の migraine があることから、他動詞を動名詞にしたもの、または形容詞が入ると想定される。① activating を入れることで、「偏頭痛を引き起こす際に」という意味になる。

(カ)には、主語になる語が入ると予想できることから名詞を入れる。残りの選択肢のうち名詞は⑥ hands、⑦ lightning であり、lightning を入れることで空所直後の“and strong winds”と合わせて「雷と強風」という意味になる。

(キ)には、副詞が必要だと予想できることから、残った⑨ rarely を入れる。

(ク)の直前には助動詞 can があることから動詞を入れる。また後ろに difference があることから⑧ make を入れ、<make a difference> という形をつくることで「大きな違いを生むこともある」という意味になる。

(ケ)の直前には所有格 your があることから名詞を入れる。また前に out of があることから⑥ hands を入れることで <out of one's hands> 「手に負えない、制御不能の」という形をつくる。

(コ)の直前には助動詞 can があることから動詞を入れる。⑩ take を入れることで <take back> という形をつくることで「コントロール感覚を取り戻す」という意味になる。

この時点で、③ dilate、④ due が残っている。

(イ)の直後には“and constrict”が続く、等位接続詞 and が動詞をつないでいると考えられることから③ dilate を入れる。

(オ)の直後には前置詞 to があることから、<due to> という形をつくることで「光に対する感受性の高まりや脳の過剰な視覚処理システムのせいで」という意味になる。

[問3] 長文総合

(1) 空所( 1 )に共通して入る最もふさわしいものを選ぶ問題である。

1つ目の空所を含む英文は若干構造を把握するのが難しい可能性がある。以下のとおりである。

( 1 ) of this stopped her finding an almost luminous beauty. <in the world around her>,  
s v o[s] [v] [o]

<noticing, for example, <while lying on an operating table>, a therapeutic installation—a waterfall—positioned  
[v] [o] [c]

<just outside the theater doors>>.

主文の動詞である stop の目的語が、意味上の主語 her を伴う動名詞句 “finding an ~ beauty in the world around her” である。もし主語に否定語が入らなくなると、「何か」のせいで、彼女、つまり詩人ヘレン・ダンモアが周りの世界に美を見出せなくなったことになる。しかし、これは、文章後半で娘の言葉として語られる内容と矛盾する。下線部(3)がその部分であり、この和訳問題を解いた時点で、空所に入れるべき単語が none であると確信できるはずである。none を入れた場合の前後を含めた3文の意味は「ダンモアは、その波頭の下、今にも崩れ落ちて打ち砕かれそうな地点で詩を書いていた。自分が死んだ後も、波はなお砕け続けるのだということを意識しながら。このような状況でも彼女は、身の回りの世界に、ほとんど光を放つかのような美を見いだすことをやめなかった。たとえば手術台に横たわっている最中、手術室の扉のすぐ外に設置された治療的なインスタレーション、すなわち滝に目を留めている。彼女は、この屋内の滝に出会った瞬間の『驚きと喜び』を描写し、自分が最も愛する要素である水が、思いもよらぬほど近くにあったことを喜ぶ」である。

1つ目の空所で答えを確定することは可能であるが、念のため2つ目の空所に none を入れて問題ないか確認する。空所を含む1文の意味は「その問いに、私たちの誰一人として、終末の診断を自ら受けるまで確かな答えを持つことはできないだろう」となる。これで意味が通るかどうかは、次の文とのつながりを確認する必要がある。その1文の意味は「それでも、ただ一つ、現場での経験から言えることがある。死と同義の場所であるわりに、ホスピスは、実のところ、ほろ苦さをたたえた生に満ち、静かに、しかし確かに、生き続けているのである」である。この1文に、逆接の副詞 though が含まれ、加えて「言えることがある」という内容により、2つ目の空所にも否定語である none が入ることが妥当であると判断できる。

(2) 空所に最もふさわしいものを入れる問題である。

空所の直後に “BBC Radio 4’s *Today program*” とあるので、「番組で喋った」という意味を予想すると、空所には on を入れるべきことがわかる。その場合の1文の意味は「その翌朝、私はBBC ラジオ4のトゥデイという番組で、娘のテス・チャーンリーが、母がどのように自分の死への恐れと向き合う手助けをしてくれたかを語るのを、息をのんで聴いていた」である。

(3) 和訳問題である。

「母の世界は以前よりも小さくなり、彼女はあまり遠くまで外出できなくなりましたが、私が思うに、彼女はあらゆるものに美を見出し続けていました。私はそのことに大きな感銘を受けています」

和訳すべき箇所の構造を確認する。

I think,

S V

<although her world got smaller and she couldn’t go out <so far afield>>,>

S’ V’ C’ S’ V’

she continued to just see the beauty <in everything> — which I find very inspiring.

S V O O’ S’ V’ C’

“I think she continued to just see the beauty...” という文に副詞節の “although her world got smaller ~” が挿入されたものと考えてよい。なお、think の目的語となる節をまとめるはずの接続詞の that は省略されている。“I think” については「～と私は考える」と最後にまとめてもよいが、「思うに～、私の考えでは～」と前から訳すのもよいだろう。

副詞節の主語の “her world” の her と she は Helen Dunmore を指す。ここはその娘の発言なので「母」と訳しても良いし、素直に「彼女」と訳してもよいだろう。“got smaller” は「(世界が) より小さくなる」。“couldn’t go out so far afield” は「それほど遠くまで出かけられない」。病気によって行動範囲が狭まっていることを理解しながら読む。

“she continued to just see the beauty in everything” は「あらゆるものの中に美しさをひたすら見出し続けた」.<continue to do> 「～し続ける」、 “the beauty” 「美、美しさ」で、 just は強調であることを踏ま

え、素直に訳出すればよい。“— which I find very inspiring” はカンマ(,)ではなくロングダッシュ(—)だが、実質的に非制限用法である。したがって前から訳していけばよい。which は目的格で、前文の内容を受ける。「(そして) それはとても心を打つように思える」とでも訳せばよいだろう。<find OC> 「OをCだと思う、OがCだとわかる」をしっかりと訳に表すことが大切である。

(4) 同義語選択問題である。

- ① 「属性」
- ② 「予想」
- ③ 「意味」
- ④ 「短さ」

brevity は形容詞 brief の名詞形であり、「短さ、簡潔さ」という意味である。よって、④の shortness が妥当である。もし単語の知識として brevity に自信がなければ、文脈から推測することになる。下線部を含む1文のおよその意味は「緩和ケアの本質を、これほどよく伝えるものは他にないのではないか」と思うのが、ダンモア最後期の詩の一つ“My Life’s Stem Was Cut”である。この詩の中で彼女は、人生の～を痛切に意識しながらも、死にゆく中で花を咲かせ続けるという意識的な選択を描いている」である。逆接の関係を成り立たせるには、「人生が短い」あるいは「人生ははかない」といった意味にすればよいと予想できる。

(5) 同義語選択問題である。

- ① 「直接の」
- ② 「必要な」
- ③ 「痛々しい」
- ④ 「代理の、代償の」

first-hand は「直接の」を意味する形容詞である。よって①の direct が妥当である。

(6) 下線部語句が指す内容を説明する問題である。

「ホスピスのことであり、そこにいるのは全員死にゆく運命を自覚した人々であるという意味で『死にゆく場所』である」

まずは下線部分の英文を確認しよう。

“a place synonymous with dying” 直訳すれば「死と同義の場所、死と同じことを意味する場所」である。やや難しい単語だが synonym 「類語、同義語」というところからなんとか推測したいところ。

次は設問の要求を考える。「下線部(6)が示す内容」を答えよ、ということなので、どこまでを解答に盛り込むかは難しいところだが、

- ① “a place” が何を指すかの明示
- ② 「死と同義」とはどういうことかの説明

の2点を示せばよいだろう。まず① “a place” とは何かを考えよう。該当箇所は that 節の中にあるので、節の中の構造を分析すると以下の通りである。

～that <for a place synonymous with dying>, a hospice is remarkably full of life...

s                  v                  c

順序としては、前置詞 for の句のあとに “a hospice” という主語が来ているので「“a place” はホスピスのことかな？」とまず予想する。次にこの for の役割を考えると、for の中には dying 「死」があり、主文のところには “full of life” 「生で満ち溢れている」とあるところから「逆接の働きではないか？」と考えられる。

ex. He is tall for a boy of twelve. 「12歳の少年にしては背が高い」

したがって、“a place” をホスピスと仮定して訳してみると「死と同義の場所であるわりに、ホスピスは、実のところ、ほろ苦さをたたえた生に満ち、静かに、しかし確かに、生き続けているのである」

と訳すことができるので、“a place”は“a hospice”を指していると確定できるだろう。

そして②は、ホスピスという施設の性質を説明している部分、例えば第3段落2文目の“... what we hope to enable in a hospice—a state of living while dying in which, ...”などを参考にしつつ、本文全体の内容を踏まえ「死にゆく運命を自覚した人々が集まる場所という意味において死と同義である」と解釈し、答案を作成すればよいだろう。

〔問4〕 和文英訳

- (1) 「その土地に行けばその空気があり、その空気にあった言葉というものがあるのであって、なかなかそれにさからうことはできない」

If you go to a place, you breathe the air of that place. In much the same way, once you are there, you find yourself speaking like the locals before you know it.

[別解1] Different countries have different atmospheres, and languages are subject to changes in the atmosphere. That's why we cannot go against them when learning languages.

[別解2] Every place has its own atmosphere, and the local atmosphere shapes the words people there use. Therefore, you need to adjust your word choices accordingly.

[別解3] Stepping into a place, you can feel the atmosphere that belongs to it, and you can't help choosing words that match the local atmosphere.

[別解4] If you go to a place, you breathe the air of that place. Much like breathing the air of a place naturally, your speech begins to take on its local speech patterns.

「その土地に行けばその空気があり～」は if you go to a place, you breathe the air of that place, ~ / different countries have different atmospheres, ~ / every place has its own atmosphere, ~ / stepping into a place, you can feel the atmosphere that belongs to it, ~ など、「その空気にあった言葉というものがあるのであって～」は there are words that fit that atmosphere, ~ / languages are subject to changes in the atmosphere, ~ / some expressions feel natural in that atmosphere, ~ / the local atmosphere shapes the words people there use, ~ など、「なかなかそれにさからうことはできない」は we cannot go against them when learning languages / you need to adjust your word choices accordingly / you have little choice but to follow it / you are bound to be influenced by it ~ など。なお、「その空気にあった言葉というものがあるのであって、なかなかそれにさからうことはできない」を「その空気にあった言葉というものにさからうことはできない」とまとめれば、you can't help choosing words that match the local atmosphere / the atmosphere of a place determines what kind of words you use のようになる。そうではなく、「その空気にあった言葉というものがあるのであって、なかなかそれにさからうことはできない」の部分で、「ある土地に行けば自然とその土地の空気を吸うのと同じように、ある別の地域に行けば自然とその土地の言語を話すようになる」というように解釈すれば in much the same way, once you are there, you find yourself speaking like the locals before you know it / you will find distinctive words suitable for the atmosphere, which never fails to influence your language / just as you breathe in the local air, you find yourself adopting its way of speaking without realizing it / much like breathing the air of a place naturally, your speech begins to take on its local speech patterns などとすることもできる。

- (2) 「まずアクセントが変わり、それからボキャブラリーが変わる。この順序が逆になると、なかなか言語はマスターできないものである」

Changes in accent happen first, followed by changes in vocabulary. If this order is reversed, the chances are that you cannot master any language.

[別解] Typically, your accent changes first, and then your vocabulary does. If you reverse this order, you will have difficulty mastering a foreign language.

「まず～それから…」は ～first, followed by ... / ～first, and then ... / ～first, and ... next / To begin with ～, and then ... / ～before ... など、「アクセントが変わり」は changes in accent happen [occur] / our accent changes / our accent shifts など、「ボキャブラリーが変わる」は changes in vocabulary / our vocabulary follows など、「この順序が逆になると～」は If this order is reversed, ～ / If you reverse this order, ～ / If this occurs in the reverse order / If you try to do it the other way around / If you try to change your vocabulary before your accent / Reverse the order, and ～ など、「なかなか言語はマスターできないものである」は the chances are that you cannot master any language / we will have difficulty mastering a foreign language / it becomes very difficult to truly master a language / it is hardly possible to master a language / it's tough to really learn the language / acquiring the language becomes all the more difficult / the true mastery of a language becomes much harder などとする。

## 講評

- 問1 [長文総合] (標準) 「身の上話を語れない・聞けない社会」に関する英文。語句整序問題は1問増えて6問構成。和訳問題はシンプルで取り組みやすい。
- 問2 [長文総合] (標準) 「天候の変化がきっかけとなる偏頭痛」に関する英文。昨年度同様10カ所の空所補充問題が出題された。和訳は、語句の指す内容を明示する際に若干の工夫が必要である。
- 問3 [長文総合] (標準) 「ホスピスで過ごした詩人から学ぶ最期の迎え方」に関する英文。状況や情緒の理解が和訳や説明の精度を左右するだろう。
- 問4 [英訳] (やや難) 「言語と空気の共通性」に関する和文中の一部を英訳する問題。下線部の数は1つ減って2カ所となった。日本語の内容をどのように解釈するかによって、英語の構成の仕方、表現にも幅が出やすい。

大問数は昨年度と変わらないが、英文そのものの分量、記述量ともに減少している。記述問題を確実に得点しつつ、記号問題で取りこぼしをどれだけ減らせるかで差が出るだろう。目標は70%

**メルマガ無料登録で全教科配信！** 本解答速報の内容に関するお問合せは… メビオ ☎0120-146-156 まで

医学部進学予備校 **メビオ**  
☎0120-146-156 <https://www.mebio.co.jp/>

医学部専門予備校  
heart of medicine **YMS**

医学部専門予備校  
**英進館メビオ** 福岡校

☎03-3370-0410  
<https://yms.ne.jp/>

☎0120-192-215  
<https://www.mebio-eishinkan.com/>



登録はこちらから

諦めない受験生をメビオは応援します！

**医学部後期入試**  
**ガイダンス** 参加無料  
**2/11 (水・祝)** 医学部進学予備校 メビオ校舎  
**14:00～14:30** お申込みはこちら▶



医学部進学予備校 **メビオ** フリーダイヤル ☎0120-146-156

後期入試も **チャンス** あり！

私立医学部 2026年度入試対策  
**大学別後期模試**

近畿大学医学部 **2/17 (火)**

金沢医科大学 **2/20 (金)**

締切：4日前15:00 会場：エル・おおさか

詳細やお申込は  
こちらから



校舎にて個別説明会も随時開催しています。  
【受付時間】9:00～21:00 (土日祝可)

大阪府大阪市中央区石町 2-3-12 ベルヴォア天満橋  
天満橋駅(京阪/大阪メトロ谷町線)より徒歩3分